

秦野市子ども・子育て会議（令和7年度 第1回）

会議記録（要点筆記）

委員会名		秦野市子ども・子育て会議（令和7年度第1回）	
日時	令和7年10月21日（火） 14：00～15：45	場所	秦野市役所教育庁舎3階会議室
出席者	<p>[委員氏名] [所属団体等] (☆) …職員交代等による新規委嘱</p> <p>小林 正穂 : しらかばこども家庭支援ステーション副所長（会長）</p> <p>石井 千昭 : 元末広小学校・北中学校長（副会長）</p> <p>石井 則子 : 東海大学児童教育学部助教</p> <p>井上 幸子 : 市民委員</p> <p>梶山 孝夫 : 秦野市社会福祉協議会</p> <p>金子 礼存 : 秦野市私立保育園園長会</p> <p>串田 浩 : 秦野商工会議所</p> <p>込山 香織 : 市民委員</p> <p>高木 貴子 : 神奈川県平塚児童相談所 子ども支援第二課長（☆）</p> <p>西野 恵美 : 秦野市P.T.A連絡協議会（☆）</p>		
欠席者	<p>[委員氏名] [所属団体等]</p> <p>内藤 剛彦 : 秦野伊勢原医師会</p> <p>原 あづさ : 私立幼稚園園長</p> <p>松原 沙織 : 獨協大学経済学部教授</p> <p>府川 優樹 : 秦野市学童保育連絡協議会（☆）</p>		
<p>[事務局] こども健康部長 こども健康部 こども政策課長 保育こども園課長 認定・入所担当課長代理 こども家庭支援課長 こども・若者相談担当課長 こども育成課長 教育部 教育総務課長 教育総務担当課長代理</p>		<p>[庶務担当（こども健康部こども政策課）] こども政策課 課長代理 主任主事</p>	
議事内容	<p>1 開会 2 委員紹介・事務局職員紹介 3 会長あいさつ</p>		

秦野市子ども・子育て会議（令和7年度 第1回）

	<p>4 議事</p> <p>(1) 第2期秦野市子ども・子育て支援事業計画の令和6年度実施状況について</p> <p>(2) 次期幼児教育・保育環境整備計画について</p> <p>(3) その他</p> <p>5 閉会</p>
配付資料	<ul style="list-style-type: none">・次第・委員名簿・【資料1】「第2期子ども・子育て支援事業計画」令和6年度実施状況報告書・【資料2】次期幼児教育・保育環境整備計画について・【資料3】秦野市こども計画（第3期子ども・子育て支援事業計画）の変更について

[1 開会]

○事務局

（配付資料の確認）

[2 委員紹介・事務局職員紹介]

委員は五十音順、事務局職員は組織機構順に自己紹介

○こども健康部長よりあいさつ

○事務局

（14名の委員のうち10名の出席があったため、秦野市子ども・子育て会議条例第5条第2項の規定により、会議が成立していることを報告）

[3 会長あいさつ]

[4 議事]

（1）第2期秦野市子ども・子育て支援事業計画の令和6年度実施状況について

○事務局

【資料1】に基づいて説明

○委員

P16の「赤ちゃんふれあい体験」について説明があったが、新型感染症が収束しても、インフルエンザなどもあり、実施したくてもできない状況だったのだと思う。自然災害は仕方がないため、評価をつけること自体難しいのではないか。

○委員

他の自治体でも感染対策をしながら同様の事業を行っているのか。

○会長

実施している自治体もあるが、知る限りでは休止している自治体が多いのではないか。
別のやり方や方向性で考えていくのであれば、委員のおっしゃるとおり、Dではなくてもよいのではないか。次の計画にも、プレコンセプションケアの推進も位置付けてい

るため、こうした取組がわかるように報告書の記載をわかりやすくすればよい。

他の事業も同様に、数はもちろんだが、質も担保していくことが重要である。

○委員

内部的な事情ではないため、評価はつけなくてもいいと考える。昨年の計画策定に向けた総括においても代替の事業に引き継ぐとの説明があったので、報告書にもそのような記載があればよい。

○副会長

代替のことを考えていたり、別の方向性が見えたりしているのであれば、報告書に記載いただきたい。

○会長

職員のモチベーションにもつながるため、ぜひ前向きな評価をお願いしたい。

○委員

報告書のP2「はじめに」の評価基準によれば、D評価なのかもしれないが、他の委員のいうとおり、別の事業を展開していくのであれば、問題ない。

○会長

あくまで自己評価ではあるが、内容で評価していきたいので、ぜひ具体的に記載いただきたい。

○事務局

来年度の子ども・子育て会議において、令和7年度の実施状況報告を行うに当たっては、御意見を踏まえ、よりわかりやすい実施状況の報告を行い、調査・審議できるよう努めていきたい。

○副会長

P17「訪問型個別支援事業」の自己評価の理由として、今後より多くの児童・生徒に支援できるようしていく必要があると記載されているが、具体的な見通しはあるか。

○事務局

本事業は旧上幼稚園の園舎を活用し、訪問型個別支援教室「つばさ」を実施してきたが、令和4年度からは旧大根幼稚園にある、はだのE-Labにおいて「つばさ」のサテライト機能として実施し、大根や鶴巻地区の児童・生徒の支援につながっている。引き続き、増加する支援を必要とする児童・生徒に対し、支援をしていきたいと考えている。

○会長

スクールソーシャルワーカーなどの専門職は人材不足である。定年後の経験ある教員等の活躍による対策も考えられる。神奈川県立総合教育センターでは教育相談コーディネーターなどの人材育成を行っている。また、福祉に関する情報は、A Iも非常に詳しくなっているので有用である。本当に必要なところに人員が配置できるように考えていただきたい。

秦野市子ども・子育て会議（令和7年度 第1回）

○委員

P35「子育て短期支援事業」については、第2期計画では実施に至っていないことがわかった。現時点で検討した方向性があるのであれば記載してあるとよい。

○会長

市内に児童養護施設がないことが大きな要因である。また、近隣町に児童養護施設があるものの、送迎ができない等の課題があり、実施には至っていない。

子育て短期支援事業は、里親やファミリーホーム、地域小規模児童養護施設等の様々な手法があるので、市の実情に応じて検討いただきたい。

○委員

里親等への委託も検討していただいているが、里親の認定は県が行っている。新たに里親になられる方々へは、地域でのショートステイの役割等も求められていることを説明している。従来の里親の取組だけでなく、地域のショートステイでも活躍する里親の方が増えてほしいと考えている。

○委員

事務局の説明の中で里親に協力してもらっていると聞こえたが、状況はどのようか。

○事務局

説明では、里親の協力により、ショートステイを実施している自治体があると説明した。県内での事例は少ないが、県外では既に里親委託によりショートステイを実施している自治体がある。実施に向けては様々な手法があるため、本市に適した方法で実施できるよう考えていきたい。

(2) 次期幼児教育・保育環境整備計画について

○事務局

【資料2】に基づいて説明

○委員

P1に就園児童数の推移が記載されているが、参考までにどこにも所属していない未就園の子どもの数はどのくらいいるのか。

○事務局

令和6年度実績として、4月1日時点でお歳715人に対し622人、1歳739人に対し、374人、2歳837人に対し371人、3歳909人に対し191人が未就園となっている。

4歳以上についても、インターナショナルスクール等に所属する子どもなど、少数であるが未就園児がいる状況である。

○委員

P3に公立園の縮充の考え方方が記載されている。これまで公立幼稚園の3年保育は実施しない方向性だったかと思うが、3年保育を実施するということが決まっているのか。

秦野市子ども・子育て会議（令和7年度 第1回）

○事務局

これまで、公立園では2年保育を堅持してきたが、保護者は3年保育のニーズが高い状況である。また、公立園のみなみがおか幼稚園やほりかわ幼稚園については、公私連携幼保連携型認定こども園化することで、民間運営の中で3年保育を実施できる体制を整えてきた。

今後は、園児数が減少する中で、公立園が定員の調整役となり縮小していく考え方ながらも、民間園とのバランスや保護者のニーズを考慮しながら、3年保育の実施について、引き続き検討する必要があるということである。実施が決まっているということではない。

○副会長

「4 次期計画に向けて」の最後に記載があるとおり、民間園を最大限活用しながら、公立園は支援を必要とする園児の受入れ先として、民間園と相互に補完し合いながら、いい形で進めていただきたい。

○委員

公立園は縮小する方向の中、支援を必要とする園児に特化した園にしていくということ。

○事務局

そうした園児に特化するわけではなく、これまでと変わらずインクルーシブな視点で進めていく。

○委員

ぜひ、インクルーシブな視点でお願いしたい。また、本年9月1日号の広報はだでの保育の質の向上に向けた補助金等についても記事になっていたが、今後も経済的な支援にとどまらず、乳幼児教育センターを中心に民間園との連携の中で保育の質の向上に向けた環境を整え、こどもたちが平等に教育・保育を受けられるような方向性についていただきたい。

○会長

統廃合等の園の数についても整理していくべきだが、内容も重視していただきたい。発達に不安のあるこどもが増えているが、秦野市も発達検査待ちの期間が長いと聞いている。検査ももちろん大切であるが、保護者に寄り添って孤独にさせない支援が重要である。保護者の不安を取り除けるような相談機能を強化するなど、教育・保育の質の向上についてもしっかりと取り組んでいただきたい。

(3) その他

○事務局

【資料3】に基づいて説明

秦野市子ども・子育て会議（令和7年度 第1回）

○会長

特に御意見等なければ、ここで事務局へお返ししたい。

○事務局

次回（第2回）の会議は、令和8年1月下旬から2月上旬に開催の予定であるため、
詳細については改めて御案内したい。

以上をもって、秦野市子ども・子育て会議を閉会とする。本日の御礼を申し上げる。

[5 閉会]